

Letter from Samoa

サモア通信 6th
Mar.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモアでは先月サイクロンが直撃し、自然の猛威を肌で体感することとなりました。そこで、今年度最終号のサモア通信では、サモアの自然災害について綴りたいと思います。

○サモアにおける地震・津波

サモアは太平洋プレートとインド・オーストラリアプレートの境界付近に位置している島国で、日本と同じく地震がとても多い国です。近年では2009年に、サモア沖地震と呼ばれるM8.1の地震が発生しました。津波によってサモア南部地域の村が壊滅し、180人以上の死者が出たそうです。サモアの人口が約18万人なので、1000人に1人という高い割合であり、被害の大きさが改めて感じられます。

○サイクロン直撃

2月9日から10日にかけてサイクロン「Gita」がサモアに直撃しました。直撃前は「台風みたいなもんかなあ」と安易に考えていましたが、サイクロンは予想をはるかに超えてきました。平均風速40m/sという、日本のめちゃくちゃ強い台風と同程度のものであり、我が家の大切な食糧である、バナナとパパイヤの木が多くなぎ倒されました。しかし、サモアを通過後、平均風速60m/sにまで勢力を増し、トンガへ直撃しました。トンガでは多くの家屋が倒壊するほどの被害だったようです。ちなみに前回のサイクロンは4年ほど前だったら



しく、日本の台風のように頻繁に発生するものではないみたいです。

○断水・そして停電

今回のサイクロンでは家屋等は無傷であり、死者がでるようなことはなかったようです。しかし、我が村では「停電・断水」が発生し、2大インフラが使用不可となりました。もともと毎晩断水している我が家では夜は雨水タンクの水を利用して、今回断水が1週間程続きましたが、そこはすぐに適応できました。問題は停電。なんと3週間続きました。いや本当に長かった。

○停電から感じた「当たり前」の基準

夜はろうそくでの生活。子ども達は慣れないろうそく生活にテンションが上がり、いつもより盛り上がっていました。しかし2週間もすると停電に関する会話すらなくなりました。電気がないことが「当たり前」となったのでしょうか。電気がなくて不便ではあっても、案外普通に楽しく生活はできます。置かれた環境の中で楽しく生活する大切さを感じました。サモアに来て7ヶ月が経過し、いつしか「サモアにいたことが当たり前」と感じている自分がいます。しかしこの時間は「当たり前」ではなく、とても貴重な時間だと改めて捉え直し、残り1年間サモアでの生活を楽しまたいと思います。みなさんの「当たり前」の高校生活も人生で今しかない貴重な時間です。大切に、笑顔で楽しく過ごして欲しいと思います。それではまた来年度! Fa soifua!

